

愛知県政余聞

倉知俊彦元県議の独白【番外編】①⑥

赤羽 竹道

石破茂・衆議院議員(現首相)が語る

「倉知さんと出会えて幸せ」「総括されていない“平成”」



石破茂 元地方創生担当相、現首相
(写真は2020年10月20日撮影)

倉知俊彦元愛知県議が尊敬し、最も親しくしていた国会議員の一人が石破氏(鳥取県選出、当選13回、元地方創生担当相)だ。地元豊田市に彼を招き、講演を依頼するなど交流を続けていた。倉知は、安倍晋三氏と石破氏が争った自民党総裁選では石破氏を支援、絶大な人気を博した安倍氏を上回る石破票を愛知県連が獲得したことも。生前、倉知は石破氏を首相にしたいとたびたび話した。自民一強時代をひた走っていた安倍晋三首相を軽薄と批判し、思想的な裏付けがあり信頼できる石破氏こそ首相にふさわしい、と褒めた。石破氏は倉知死去から6年後に首相となったが、倉知の通夜に駆け付け、

心のこもった弔辞を読んだ。鳥取県以外ではおそらく、石破首相誕生を最も喜んだはずの地方議員は倉知だったのではないか。

歴代最長の安倍政権の幕が下り、2020年、菅義偉政権が誕生し、新型コロナウイルスの感染拡大による、社会、経済的危機が迫った。岸田文雄首相の総裁選不出馬を受けて石破茂氏は24年9月、5度目の自民党総裁選で運命の女神を引き寄せ、第102代総理大臣に就任した。解散、衆院選で自公は過半数割れとなり、少数与党の第2次石破政権が始動、25年を迎えた。石破首相は2月、トランプ大統領と初めて対面で首脳会談を行い、日米外交の第1歩を踏み出した。不安が先行する激動の時代に、石破氏は倉知について、日本の針路についてざっくばらんに語った。